

「 さ さ え 」

2012年 4月発行 情報誌 第39号

発行 NPO福祉用具ネット事務局

住所:福岡県田川市伊田4395(福岡県立大学内)

TEL/FAX: 0947-42-2286

E-mail npo-fukusiyounet@sage.ocn.ne.jp

HP <http://www10.ocn.ne.jp/~npofynet/enter.htm>

情報誌「ささえ」は年4回(1月・4月・7月・10月)発行しています。

印刷 よしみ工産(株) 北九州市戸畑区天神1丁目 13-5

福祉用具はあなたの自立をささえます

あなたのささえがNPO福祉用具ネットを元気にします

【商品名】 床ずれ防止用ハイブリッドマットレス

「アルファフラ ソラ」

床ずれ防止には体圧分散+ケアが重要にもかかわらず、これまでのマットレスは体圧分散ばかりを求めていました。医療やテクノロジーの進化にともなって常識も進化します。これからは、ポジショニングや介助のしやすさ、ご利用者の QOLなどを総合的に考慮したマットレスをお選びください。**アルファフラ ソラ**は安定性と寝心地の良さを持つ静止型マットレスをベースに、リスクの高い腰部には新方式のエアセルを搭載。双方の利点を兼ね備えた、ポジショニングなど最新のケアがしやすいこれからのマットレスです。【発売元】(株)タイカ



特定非営利活動法人
NPO福祉用具ネット

「大切な芽を皆さんのやさしさに包まれながら育てていきたい・・・」

「NPO福祉用具ネット」設立10周年を迎えて

NPO 福祉用具ネット理事長 豊田謙二
(熊本学園大学教授・博士)

2002年11月、NPO福祉用具ネットが設立されました。今年は設立10周年にあたります。設立を祝うことは、その節目をお互いに自覚することであり、その機会に回顧と展望を試みることでありましょう。

1900年代の日本は、世界の先端を走る高齢化の現状分析とその予防的政策の模索にありました。2000年に介護保険法が施行され、その年に同時に社会福祉法が施行されました。措置から契約へ、戦後の福祉政策における重大な政策転換でありました。

私事ながら、1996年にドイツに調査研究に出張しました。名古屋大学院生時代でのフライブルク大学留学から随分日数が経っていました。調査の目的は、ドイツで導入された介護保険に関する情報を得ることにありました。と同時に、当時福岡県立大学の教職員有志と田川市職員との間で、「人間工学研究所」設立構想が浮上し、その研究内容の吟味も、私の内に孕まれた在外研修の目的でありました。

帰国後、「福岡県立大学福祉用具研究会」を発足させました。大学・田川市・民間のネットワークを活かした、福祉用具の開発・普及に向けた事例研究の開始です。日本の現状は、脳卒中による緊急入院、そして退院、帰ってきた自宅での「寝たきり」状態。正確にはそれは「寝かせきり」です。当事者が起きることができるのに、寝かされている、その状況はドイツでは見聞できませんでした。その理由を私は、退院時でのケアプラン作成とそのプランにおける福祉用具の活用にある、と推察しました。

「寝かせきり」を起こす、その社会運動の基礎に福祉用具の活用を据える。それが「研究会」発足の趣旨でありました。幸いにもその趣旨に賛同されて、多くの専門職の人に参加していただきました。その研究会での事例研究が定例会のかたちで開催され、現在のNPO福祉用具ネットの事務局長、看護師以外に複数の肩書きを有する大山美智江女史がその中心にいました。

1997年に「NPO法」が施行されます。私は本「研究会」の存続を進めながら、同時に、その事業部門での「NPO」化を提案しました。事例研究を本旨とする研究部門と、あらたに開発・供給事業を担当する部門を「NPO」化することにより、福祉用具の研究と開発を一体的に推進できる、という思いでありました。NPOとは何か、という議論から始めますから結論への道筋は容易ではありませんでした。

NPO法人格の取得、それが重大な意義なのです。つまり、団体は任意団体であれば代表者の責任で活動します。NPO法人は法によって人格を有しておりますから、持続的にして信頼を得ることができ、法人が責任主体であり契約を締結する権利を有しています。また、契約を締結できることがNPO法人の収入の源泉ともなります。

NPO福祉用具ネットの法人化は2002年でありました。2000年に介護保険の導入が予定され、その法案に「福祉用具」の名称が明示されましたので、「福祉用具」を法人の名称に掲げました。事業化に際する議論のなかで、「有限会社」の可能性が提議されました。有限会社は利潤追求型です。私たちは、収入を求めても利潤を求めない非営利法人の途を選択しました。ヨーロッパ諸国では、こうした非営利組織が福祉・介護・教育・医療分野での中心に位置づけられています。本NPO法人においては、理事長および理事には報酬はありません。ボランティア精神での参加が求められているのです。

本NPO法人は定款に定められていますが、今日では積極的に民間事業所と連携しつつ、福祉用具の開発・供給に乗り出しております。それだけに、事務局の多忙さは筆舌に尽くしがたい状況であります。本NPO法人および福祉用具研究会の設立の意図は、地域貢献の一言にあります。10年の日々の蓄積を礎石にしつつ、会員はもとより多くの市民への協力を訴えながら、一緒に地域を支えあえる未来を志向していきたいと思っております。

支援の姿勢

NPO 福祉用具ネット理事 長尾 哲男
九州栄養福祉大学リハビリテーション学部
作業療法学科教授

作業療法は、当事者が活動することで自らのうちに何らかの変化を生み出すことを支援するものである。かつて「作業療法の核」を問うキャンペーンが学会テーマとしても行われたが、昨今の現況はどうであろうか。作業の「準備活動」として行われる徒手介入は作業療法の範囲の中にあるとする主張も強かったように思う。多くのすばらしい理学療法士と協働する場に恵まれていたので、手技の部分は彼らに極力委ねて作業療法士は違う顔をクライアントに提供すべきと主張していたつもりであったが所詮非力であった。

手芸・工作の類の活動を作業療法現場でやろうとすると科学的根拠のない手芸屋さんと批判されたこともあったように思う。しかし、今思い出すとそのような場にこそ笑いが満ち、作業成果に活動者自身が喜々として向き合っていたように思う。新しい参加者への指導はセラピスト以外にその場に居合わせた者たち皆が関わっていたように思う。患者自身が身を置いている環境そのものが自らを変えていく力を持つ場であり、さりげなくその場を作り上げ、機能させていた先達の技には舌を巻いたものだった。これは、学生時代も就職してからも常に驚嘆し、未だに目指してはいるが一朝一夕にできる技ではなかった。

活動の支援は、想い計った仕掛け作りであり、役割を終えると自然と風化するか、仕掛けであったことが暴露したとしてもお互いに笑ってすませるものでなければならない。自転車の乗り始めに、支えているよと言いながら手を離していく呼吸と同じである。

自身が自らの選択で活動すると言っても、そのエネルギーが萎えている時には支援が必要である。サポートし地力をつけていくように支援するのが黒子役であり、その連携がうまくいなくて笑いを提供するの二人羽織である。人形浄瑠璃では頭使いや黒子が手を止めると人形は命を失う。作業療法の世界が目指すものは、木偶のピノキオが最後には黒子であるゼペットじいさんの手を離れて自身の力で命を得て生きていくような支援である。

「君の良かれとする行動は本当に彼のためになっているかどうかを考えろ」、卒業後、数年してリハの専門学校に在籍していたときに今も友人の一人である同窓生を「紹介するやつがいる」と恋のキューピッド役を演じてくれた粹な中学時代の恩師からの50年ほど前の課題である。当時、恩師の目には「一人でクラスと抗う意見を言う者がいると常にその生徒の肩を持った発言をしている」と見えていたらしく、事の是非判断をせずに表面的な弱者支援に回っているとされた。単なるお節介りだったのか、ひねくれ者だったのか、今となっては具体的な記憶がないので事の顛末はわからない。

いずれにしろこのときの「課題」の、「支援とは何か」は未だに仕上がっていないレポートである。

理学療法学科から作業療法学科へ転科した時も気持ちの底に有り続けた課題である。医療の世界で治療者になりたいのか、ひとの生き様への支援をしたいのか。工学的な技術指向の強かった学生時代に、主体的活動による自らの変化を企画し提供できる作業療法は、「対岸にある何やら眩しい」ものであった。福祉と医療の間を揺れ動いた挙げ句の選択がリハビリテーションであったが、その先にまた悩まされるものがあつた。しかし、近寄ってみるとこれは易々と答を見いだせ、獲得できる技ではなかった。

これからも、支える体勢の準備はしつつ、それぞれに「支え」となる適切な杖作りと配置の妥当性の向上を目指そうと思う。職人にとっては一つの失敗でも、顧客のかけがえのない人生を狂わせかねない。学校ではないのでレポート提出を焦らないでも締め切りはるかな先である・・・。

と思っていた矢先に恩師の訃報を聞いた。後日、霊前に本稿を整理した作業療法ジャーナル誌の扉の別冊を期限延長のための仮提出として手向けてレポートの遅れを詫びた。

自動採尿システム(尿吸引ロボ ヒューマニー)を上手に使うために

その10 自動排泄処理装置 ヒューマニーがレンタル対象品に!

ユニ・チャーム ヒューマンケア(株) 田中 哲也

2009年より販売を開始しました「尿吸引ロボ ヒューマニー」が、平成24年度の介護保険制度改正に伴い**2012年4月1日から「福祉用具の貸与種目に追加(自動排泄処理装置)」となります。**ここでは新しい制度の概要とヒューマニーの関わりについてご紹介します。レンタルが可能になることで、より一層の普及が期待されますので、関係者の皆様には用具および制度についての理解を深めていただき、介護の現場で適正かつ積極的な導入と活用をご検討いただけましたら幸いです。

1. 介護保険制度改正に伴う「ヒューマニーレンタル化」の概要

これまでの「ヒューマニー本体」は、「レンタル対象部分」と「購入対象部分」に分かれます。これは「他人が使用したものを再利用することに心理的抵抗感がある部分は引き続き購入とする」という厚生労働省の考え方に基づいています。これに対応して弊社では、**レンタル対象部分である「ヒューマニー本体(レンタル用)」と購入対象部分である「ヒューマニーチューブタンクセット」を以下の通り準備いたしました。**

※厚生労働省「全国介護保険・高齢者保健福祉 担当課長会議」
(平成24年2月23日開催)での通達内容(抜粋)

		福祉用具貸与 (レンタル対象品)	特定福祉用具販売 (購入対象品)
介護保険に追加となる福祉用具		自動排泄処理装置	自動排泄処理装置の交換可能部品
介護保険給付の対象となる要件		次の要件を全て満たすもの ・尿又は便が自動的に吸引されるもの ・尿と便の経路となる部分を分割することが可能な構造を有するもの ・要介護者又はその介護を行う者が容易に使用できるもの	次の要件を全て満たすもの ・レシーバー、チューブ、タンク等のうち、尿や便の経路となるもの ・要介護者又はその介護を行う者が容易に交換できるもの
ヒューマニーの場合	製品名	ヒューマニー本体(レンタル用)	ヒューマニーチューブタンクセット
	価格	月々のレンタル価格は、福祉用具貸与事業者にお問い合わせください	¥30,000円(メーカー希望小売価格、非課税) ⇒1割負担(約3,000円)で購入が可能
	外観		
	構成	・ヒューマニー本体 (右のチューブタンクセットに含まれるもの以外) ・電源アダプター	・尿吸引チューブ(センサーコード含む) ・尿タンク(容量:1~1.2L) ・チューブホルダー
	TAISコード	01125-000012	01125-000013

2. ヒューマニーの利用対象者(介護保険適用者)

今回の介護保険制度改正で追加となった「自動排泄処理装置」の中で、「尿のみを吸引する機能のもの」に関しては、介護保険適用対象者の制限はありません。つまり、ヒューマニーは要介護度に関わらず、要支援から要介護(1~5)までの全ての方が介護保険貸与(レンタル)で利用することができます。

したがって「ヒューマニーの対象者と導入の目的」は、「重度の方の介護負担軽減」のみならず、「夜の排泄ケアが原因で睡眠不足がちな方への安眠の提供」であると考えています。安眠を確保して要介護者も介護者(家族)も「朝までぐっすり休む」ことができれば、昼の生活がより充実して「もっといきいきとして自律(自立)した生活を維持」することができるようになります。

ヒューマニーは「眠れない排泄ケアの悩みを抱えている方に安眠を提供できる用具」です。もしも「排泄ケア」が原因で毎晩ゆっくりと安眠できずにいたら、夜間の「おむつ交換」や「頻尿によるトイレ移動・移乗」でお困りの方には、ぜひ一度「ヒューマニー」の活用を検討してみてください。

3. レンタル化によって期待されること

レンタルによる最大のメリットは「①導入時のコストを抑えることができる」ことであり、幅広いご利用者に対して検討がしやすくなります。そして二番目のメリットは「②導入に向けてじっくりと時間をかけることができる」ことにあると考えています。今までは「事前に数日間のお試しデモ」を実施して導入(購入)の判断をすることが多かったのですが、5~7日間程度の短期デモでは「正しい導入可否判断が困難」なケースが多くありました。レンタルによって少なくとも1ヶ月間はじっくりと導入に向けての試行錯誤ができるので、より幅広い方にヒューマニーを活用していただくチャンスが増えるものと考えています。

さらには、厚生労働省の「第6回介護保険福祉用具・住宅改修評価検討会(平成23年9月8日開催)」での検討結果によると、レンタルによって「運用面」と「普及促進」に関して以下の効果が期待されています。

- ・貸与では定期的な消毒やメンテナンスが貸与事業者に義務づけられており、適切な衛生管理を行うのであれば、むしろ(購入より)貸与のほうが有効。
- ・排泄介助は、介護者にとって大きな負担感のある行為であり、自動排泄処理装置の一層の普及は、介護者の負担軽減に有用。
- ・貸与の対象として市場が拡大することで、機器の開発の促進や価格の低下が期待できる。

ただし一方で、同検討会にて以下の注意点も指摘されており、弊社でも「適正な運用」と「普及促進」を実現するために、より一層の情報発信やサポートの強化に努めて参ります。

- ・貸与にあたっては、利用者に対し、使い方について指導すべき。
- ・寝たきりを助長することの無いよう、利用者は当該機器を真に必要とする者とすべき。
- ・衛生管理上の条件を設け、適切な衛生管理体制を取ることが出来るレンタル事業者が取り扱うべき。

(枠内は「第84回社保審一介護給付費分科会(H23. 11. 10)資料7」より引用)

4. まとめ

在宅介護のハードルを高くしている要因は「眠れない介護の放置」にあり、その原因のほとんどが「排泄ケアに起因する」と私どもは考えています。今回のレンタル化は「在宅介護のハードルを下げる」ことで「ご利用者が希望する自宅での介護を可能にする」という効果が期待されての制度改正であると思われます。その結果、社会的入院が削減できれば、将来その深刻化が予測される「介護保険財源の抑制」に繋がることも期待できます。私どもはこれからも「在宅介護の推進」と「眠れない排泄ケア解消による自律(自立)した生活の維持」を実現するための一助となるべく活動して参りますので、引き続きご支援の程よろしくお願い申し上げます。

【補足】消耗品(尿吸引パッド)の取り扱いについて

1日1回使い捨ての「ヒューマニー尿吸引パッド」は、これまで通り介護保険の対象ではありませんが、各自自治体による「おむつ給付事業」等で補助を受けることができる自治体もあります。詳しくは各自自治体窓口にお問い合わせください。また、ヒューマニー尿吸引パッドは通常の紙おむつと同じく「医療費控除対象品」です。

ヒューマニー尿吸引パッドは、従来からの「男女共用」に加えて2011年11月から販売を開始した「男性用」の2種類があります。各々に特長がありますので、男性のご利用者は条件に応じてパッドを選択してください。(詳しくはNPO福祉用具ネットのHP等をご覧ください。)

今、思うこと。「福祉用具の開発に王道なし」

(その29)

九州日立マクセル(株) 技師長 坂田 栄二
(NPO福祉用具ネット理事)

「開発おじさん! 再登場

福岡県の後押しもあって、NPOは自営の販売活動に邁進した。声のかかるところがあれば、大山はどこへでも出かけて行った。出かける車の中は、エアーマットで一杯になった。その時にいつもエアーマット「P-Wave」と一緒に説明した商品があった。それは、介護シャワーであった。

大山の“寝たきり介護の環境を、良くしたい”との思いから、これら2つの商品は重点的に開発された。

この介護シャワーも、福岡県の産炭地域産業創造等基金の助成金を受けて開発したものであり、NPOのオリジナル商品である。開発・製造・販売は福祉SDグループという個人会社で、その代表者は「開発おじさん」事、松原であった。

介護シャワーを作りたい

開発おじさんについては、本稿「その3」で既に登場いただいたが、私財をなげうっているような福祉用具の開発にチャレンジしてきた。「P-Wave」もその1つで、NPOの指導を受けながら開発に参画していたが、その傍らで介護シャワーの開発も進めていたのだ。

特に、介護シャワーは、彼のもっともお気に入りのテーマで、「寝たきりの人をきれいにしたい」との思いから、開発には力が入っていた。

開発当時は、下図のようにいろんなメーカーから介



護シャワーが販売されていた。

海水浴やキャンプなどのレジャーで使う簡易シャワーを介護用に活用したものは、価格的にも手頃で注目されていた。

また、かなり高価であるが、洗髪後のすすぎ水が回収できる洗髪プール付も販売されていた。

開発おじさんは、これらを次々に買い集め、それぞれの機能を評価し、“俺だったらこうする”と意気込んで、自分の思いを練り上げ、試作した。

その結果、考え出された介護シャワーが「その3」で紹介したとおりの悲惨な経過を辿ることになる。

打ちのめされた開発おじさん

彼の試作品は、福岡県立大学の「福祉用具研究会」という介護関係の専門家で構成された評価集団から、なんと21項目の改善すべき点を指摘され、思いっきり凹まされた。研究会のメンバーは多分、開発おじさんは開発をあきらめてしまうんじゃないかと思ったほど、改善点は困難を極めたかに見えた。

しかし、それをものともせず、改良を重ね、2か月後には改良品を福祉用具研究会に持ち込んだ。その写



真が次のものである。

最初に拒否されたジャーポット型試作品とは似ても似つかぬほどシンプルで、初めての人でも、すぐに使い方が判るような構造だった。

その出来栄は、その場の出席者から拍手が出たほど理にかなったものだった。

「いつから売り出すの？」

「いくらで売るんだ？」

「どこで売の？」

これほどまでの期待感を持たせることができた改良品になるまでには、実は“影の大きな支援”があった。

影の支援者

開発おじさんは、福祉用具研究会の指摘事項を書いたメモを改めて見直して、

“このテーマは、無理かもしれない・・・”

と思い悩んだ。

開発者は、とかく自分の技量で、“こんなことができる”“あんなことをすべきだ”と機能をてんこ盛りしたくなる習性がある。彼もその一人である。彼は、40年近く大手の家電メーカーで開発を担当してきた。家電業界は、メーカー間の競争がし烈で、常に最先端の機能が求められる。だが、今回は、そのような彼の苦労をことごとく否定したに等しい指摘点であった。

しかし、モノを作りたい気持ちを彼は捨てることができなかった。思い悩んで、大山を訪ね、その心境を話した。大山は、

「もっと現場を知らなきゃ！ そうすれば研究会の出席者が言っていた意味が判るよ。」

そうだ。今度の研修会で、アンケートを取ってみようか？ そうすれば松原さんも、どの機能を捨てればいいのか、どこに力を入れればいいのか、踏ん切りがつくと違う？」

と慰めた。

さっそく、大山は、NPOが開催する福祉用具の研修会で参加者に呼びかけた。

「この研修会が終わった後、後ろの席に介護シャワーの試作品を置いているので、それを触ってみた後、モニター用紙に皆さんの意見を書いてください。」

ちょうどこの頃、研修会はたて続けに3回開催されたが、研修会のたびに、大山は参加者に協力を呼びかけた。

その結果は、次のようなものだった。

モニター調査結果

介護用シャワーの使用希望

		度数	パーセント	有効パーセント
有効	ぜひ使用したい	13	20.0	27.1
	できれば使用したい	30	46.2	62.5
	あまり使用したいと思わない	3	4.6	6.3
	既に使用している	2	3.1	4.2
	合計	48	73.8	100.0
欠損値	未回答	16	24.6	
	システム欠損値	1	1.5	
	合計	17	26.2	
	合計	65	100.0	

90%が使いたいという結果がでた。

モニター調査結果

介護用シャワー購入時のポイント

		度数	パーセント	有効パーセント
有効	重さ	18	9.4	11.9
	価格	35	18.2	23.2
	持ち運び	26	13.5	17.2
	水量調整	29	15.1	19.2
	使用水量	15	7.8	9.9
	充電機能	6	3.1	4.0
	準備収納時間	20	10.4	13.2
	デザイン	1	.5	.7
	その他	1	.5	.7
	合計	151	78.6	100.0
欠損値	未回答	35	18.2	
	非該当	6	3.1	
	合計	41	21.4	
	合計	192	100.0	

“使いたいがつかえない”というモニター結果

介護用シャワーの使用希望者は、なんと90%近くに達している。しかし、すでに使用している人の割合は、約4%と、きわめて少ない。

開発おじさんは、大山がまとめたモニター調査結果を手にして、

“やっぱり、みんなは必要としているんだ。でも、使いたい気持ちになるような製品がまだないんだ。もっと、良い商品が出てくるのを待っているんだ。”

と、自分の思いを改めて強くした。

次いで、2枚目のモニター調査結果を見て、愕然とした。結果を見ると、まずは価格が第一優先である。これは納得できる。家電品でも、価格競争が第一であるからだ。

しかし、次が「水量調整」であることに納得できなかった。彼の理想は、温かいお湯を、たっぷりと使い、気持ちよくシャワーを浴びてもらうことだった。最初の試作品はまさにヒータで加熱する“たっぷりお湯式”のシャワーだった。

“たっぷりお湯”シャワーはなぜダメか

彼は、大山に不満をぶつつけた。大山は、諭すように彼に言った。

「毎日風呂に入れない寝たきりの人に、たっぷりとお湯をかけてあげたいのは、私たちも同じよ…。でもね、それじゃベッドまで何度もお湯を運ばなくちゃいけないし、捨てに行かなくちゃいけないでしょ！ その上、お湯が沸くまで待たなくちゃいけないし…。現場では、やることは一杯あって、シャワーだけに時間をかけるわけにはいけんとよ。」

彼は、まだ現場に出たことがない。身近に介護を必要とする人もいない。それをよく知っている大山は、続ける。

「現場は時間との戦いなんよ。だからモニター調査結果では“準備収納時間”が13%と高いんよ。この準備収納時間とは、利用者さんのところを訪問し、バケツに水を汲んで運び、シャワーを取り出し、電源をつなぎ、使い終わったら、ホースやポンプから水を抜き、持ち運べるようにバッグに詰める時間よ。中でも一番面倒なのが、ホースからの水抜き…」

バケツ一杯シャワーの思いつき

彼は、大山の声がだんだん遠のいていくのを覚えた。この時、彼はすでに、別のことを考えていた。

（時間のかかる“たっぷりお湯”がだめなら、時間のかからない“バケツ一杯の洗浄”ではどうだろうか…）

しかし、今のシャワーヘッドでは、バケツいっぱい程度の水は、すぐに底をついてしまう。シャワー量を絞れば、汚れは落ちないし…。彼はまた悩み始めた。

平成 24 年 1 月～3 月までの事務局の動き

■ 研修会

第 9 回目、平成 24 年 2 月 24・25 日 2 日間
オムツフィッター 3 級研修会を開催いたしました。

(京都むつき庵様との共催事業)

会場：福岡市博多の麻生医療福祉専門学校

参加者：53 人

参加者の年齢：22 歳から 57 歳 平均 39 歳

男女比：男性 12 女性 41

受講者の方の参加地域：

山口県 15 福岡県 15 広島県 3

沖縄県 2 熊本県 5 大分県 1

宮崎県 2 鹿児島 5 長崎県 3

岡山県 1 香川県 1

受講者の職種：

看護職(保健師含む)16 介護職 25

リハ 5 福祉用具専門相談員 3

鍼灸師 1 栄養士 1

オムツメーカー 2

(他に介護の資格を有する人 2 名ありメーカーからは
合計 4 名の参加)

研修会場を提供していただきました麻生塾様に心より
御礼を申し上げます。

■ 企業からの委託事業

1 月から 3 月までに 8 件の新しい業務委託を受け、開
発品の実験やモニター検証を行いました。

■ 医療・介護周辺サービス産業創出調査事業

“ロボット技術を用いた介護負担の少ないまちづくり”実
証研究事業～ロボット技術を用いた新介護サービス創
出コンソーシアム～にユニ・チャームヒューマンケア
(株)、麻生介護サービス(株)、三菱総研およびNPO
福祉用具ネットと共同で平成23年6月から24年2月末
まで取り組みました。

NPO福祉用具ネットは自動探尿器 尿吸引ロボ ヒュ
ーマニーの使いかたの指導を担当いたしました。

福祉用具研究会会員募集

平成 24 年度の福祉用具研究会の会員を募集いたしま
す。

今年度のテーマは「福祉用具の活用事例の検証」
参加者からの提案事例を他職種の皆様で検討を行い、
福祉用具の選定や使いかたのスキルアップを図るこ
を目的とします。

■ 募集人数：30 人程度

■ 対象者：福祉用具に興味があり、真面目に参加
できる方

■ 開催日：5 月から 11 月までの 7 回開催予定

(第 1 回目の開催は 4 月末までのお申込を受けた
方に日時のご案内を行います。)

■ 申込締切：4 月末まで

■ 申込方法：所定の申し込み用紙で NPO 福祉用具
ネット事務局まで、ファックス又はメールでお申込
下さい。 FAX 0947-42-2286

申込用紙は NPO 福祉用具ネットのホームページで
入手できます。

平成 24 年度の新会員募集と

会員更新手続きのお願い

■ NPO 福祉用具ネット会員の新規会員を募集いたしま
す。

(年度は平成 24 年 4 月から平成 25 年 3 月まで)

■ 平成 24 年度会員継続手続き開始しています。

平成 24 年度の更新手続きと会費のご入金を 1 月から
開始しています。まだ手続きがお済でない方は早めに
ご入金下さいませよう願いたします。

平成 24 年度通常総会開催日決定

日時：平成 24 年 4 月 24 日 火曜日

18 時受付

18 時 30 分開始

会場：福岡県立大学管理棟 2 階大会議室 予定

会員の皆様は必ず出欠の届けを提出して下さい。

決定している 24 年度の事業

福祉住環境コーディネーター協会からの委託事業

お申込は福祉住環境コーディネーター協会です。NPO
福祉用具ネットでのお申込の受付はできません。

4 月から 7 月までに決定している見学先は以下の通り
です。

① 4 月 14 日 土曜日 ユニット型小規模指定介護老人福
祉施設。【飯塚市特別養護老人ホーム 筑穂桜の園】

社会福祉法人飯塚市社会福祉協議会筑穂支所。【障
がい者支援センターふくふく・児童デイサービス ぴよ
ぴよ】

② 5 月 25 日 金曜日 別府重度障害者センター

③ 6 月 16 日 土曜日 JR九州博多駅

④ 7 月 14 日 土曜日 福岡市介護実習普及センター福
祉用具展示場&福岡市市民福祉プラザ 愛称「ふくふ
くプラザ」

平成 24 年度の研修計画は確定次第、ホームページ
でお知らせいたします。

第 1 回目の開催決定！

5 月 19 日 土曜日 13 時 30 分～16 時 30 分

福祉用具の使い方セミナー

『ヒューマニーの活用法と使い方について』

定員 40 人まで。事前申込必要。